

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 107 ~ 108 円台を中心に一進一退の動きか

[9月30日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月23日~9月27日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.63	107.96(26)	106.96(24)	107.76	+0.20
ユーロ・ドル	1.1008	1.1025(23)	1.0905(27)	1.0912	-0.0105
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	21,878.90	-200.19	日本10年債利回り	-0.239	-0.032
ダウ平均株価	26,891.12	-43.95	米10年債利回り	1.692	-0.029
=====					

<来週の主要経済統計等>

30日 日銀金融政策決定会合の主な意見 (9月18~19日分)

日本8月小売業販売額、日本8月鉱工業生産指数速報値

中国9月製造業購買担当景気指数

中国9月財新製造業購買担当景気指数

スイス9月KOF先行指数

独9月雇用統計

英第2四半期国内総生産 (GDP) 確報値

ユーロ圏8月雇用統計

独9月消費者物価指数

カナダ8月鉱工業製品価格

米9月シカゴ購買部協会景気指数

1日 日本8月雇用統計、日本8月有効求人倍率

日銀短観 (9月調査)

豪8月住宅建設許可件数

豪中銀 (RBA) 政策金利

スイス8月小売売上高

ユーロ圏9月消費者物価指数速報値

米9月ISM製造業景況指数、米8月建設支出

2日 スイス9月消費者物価指数

米9月ADP雇用統計

3日 豪8月貿易収支

ユーロ圏8月小売売上高指数、ユーロ圏8月生産者物価指数

米新規失業保険申請件数

米9月ISM非製造業景況指数、米8月製造業受注

4日 豪8月小売売上高

カナダ8月貿易収支

米9月雇用統計、米8月貿易収支

カナダ9月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】ドル円は大きく上値を追う材料には乏しく、107~108円台を中心とするもみ合いが見込まれるとした。なお、日経平均は過熱感が警戒されるレベルまで上昇してきており、日経平均が値を崩すようなことになれば、ドル円も上値を抑えられる可能性があるとした。

【引き続き市場を振り回すトランプ米大統領】

市場はトランプ米大統領に翻弄されている。24日の国連演説でトランプ米大統領は中国を非難する演説を行った。「中国は知的財産を盗み取っている」「世界第2位の経済大国が発展途上国だと宣言することは許されるべきではない」「米中貿易交渉、米国にとって悪い取引は受け入れない」などと述べた。

また、米大統領選の民主党の有力候補となっているバイデン前副大統領と息子によるウクライナでの疑惑を巡って、トランプ大統領がウクライナ大統領に圧力をかけたと報じられた。これに対して、米下院のペロシ議長は弾劾の調査をする方針を表明した。

その後、トランプ大統領がウクライナ大統領との通話記録が公開されたが、調査協力を要請していたことが明らかとなった。ただ、大統領の弾劾については下院では決議できず、上院での弾劾裁判により決められる。上院は共和党が多数を占めており、弾劾は難しいとの見方が広がった。

トランプ米大統領は25日に「米中は合意に一段と近づいている」「予想よりも早く合意する可能性もある」と述べた。24日には米株安、ドル売り円買いの動きとなったものの、25日には逆に米株高、ドル買い円売りの動きとなるなど、トランプ発言に振り回される展開が続いている。26日にはトランプ米大統領の弾劾問題への警戒感から米国株は再び下落した。一方、ドル円は107円台後半で引けるなど底堅い動きを見せた。

9月30日からの週は10月4日の米雇用統計などを中心に注目度の高い経済指標が数多く発表される。経済指標が上振れしても、米中貿易協議に否定的なトランプ発言があれば、米株安、ドル売り円買いにつながりやすとみられる。一方で、経済指標が下振れしても米中貿易協議に前向きなトランプ発言が出れば、株高、ドル買い円売りに傾きやすくなりそうだ。

米中貿易協議に関する米中両国、特にトランプ発言に振り回されやすい状況に変化はないとみられる。ドル円は底堅く推移しており、極端に大きく上下に振れにくいとみられ、107～108円台を中心に一進一退の動きが見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、106.50～108.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、30日に日銀金融政策決定会合の主な意見（9月18～19日分）、日本8月小売業販売額、日本8月鉱工業生産指数速報値、米9月シカゴ購買部協会景気指数、1日に日本8月雇用統計、日本8月有効求人倍率、日銀短観（9月調査）、米9月ISM製造業景況指数、米8月建設支出、2日に米9月ADP雇用統計、3日に米新規失業保険申請件数、米9月ISM非製造業景況指数、米8月製造業受注、4日に米9月雇用統計、米8月貿易収支などがある。

【欧州の景気減速懸念がユーロドルの重石に】

欧州では景気減速への警戒感が広がりがつある。ドイツで23日に発表された9月の製造業購買担当者指数（PMI）と非製造業PMIは予想から下振れした。同日のユーロ圏の製造業、非製造業のPMIも下振れするなど、ユーロドルの上値を抑えている。

ドルの堅調さに加えて、欧州の景気減速への警戒感からユーロドルは上値の重い展開を続けるとみられる。1.0900ドルをしっかりと割り込むと一段と下値を探る展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0800～1.1050ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、30日に中国9月製造業購買担当景気指数、中国9月財新製造業購買担当景気指数、スイス9月KOF先行指数、独9月雇用統計、英第2四半期国内総生産（GDP）確報値、ユーロ圏8月雇用統計、独9月消費者物価指数、カナダ8月鉱工業製品価格、1日に豪8月住宅建設許可件数、豪中銀（RBA）政策金利、スイス8月小売売上高、ユーロ圏9月消費者物価指数速報値、2日にスイス9月消費者物価指数、3日に豪8月貿易収支、ユーロ圏8月小売売上高指数、ユーロ圏8月生産者物価指数、4日に豪8月小売売上高、カナダ8月貿易収支、カナダ9月Ivey購買部協会指数などがある。

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。